

## 十和田市事務事業評価シート

### 【事務事業の概要】

|         |   |        |                  |
|---------|---|--------|------------------|
| 整理番号    | 68  | 実施計画番号 | 27               |
| 事務事業名   | 北里大学公開講座  |        |                  |
| 個別事業名   |   | 事業開始年度 | 平成11年度           |
| 担当課名    | 生涯学習課   | 事務の種類  | 自治事務             |
| 根拠法令等   |   | 関連事務事業 | 十和田市民大学講座(中央公民館) |
| 背景や経緯等  | 生涯学習推進の観点から、市民一人ひとりが、それぞれの生活習慣や社会の変化に対応し、生涯にわたって学習を継続できる環境づくりが求められている。この事業は、リカレント教育(社会に出てからも教育機関で学習できるシステム)の充実事業として考えている。 |        |                  |
| 事務事業の目的 | 大学の専門的分野の教育及び施設を地域社会に開放し、多様化する学習ニーズに対応し、幅広い学習機会を提供する。   |        |                  |
| 実施状況    | 「いのちを見つめ直して」を主テーマに、「認知症」「看取りの文化と在宅死」など北里大学教授等を講師に10回講座を実施した。講座については、主に北里大学を会場に、土曜日午後3時間実施し、講話、実習を行っている。                   |        |                  |

### 【人件費の推移】

|       |         | 22年度実績 | 23年度実績 | 24年度計画 |
|-------|---------|--------|--------|--------|
| 正職員   | 従事者数(人) | 1      | 1      | 1      |
|       | 活動日数(日) | 13     | 13     | 12     |
|       | 人件費(千円) | 468    | 468    | 432    |
| 正職員以外 | 従事者数(人) |        |        |        |
|       | 活動日数(日) |        |        |        |
|       | 人件費(千円) |        |        |        |

### 【事業費の推移】

|           |  | 22年度実績 | 23年度実績 | 24年度計画 |
|-----------|--|--------|--------|--------|
| 事業費合計(千円) |  | 810    | 750    | 650    |
| うち一般財源    |  | 810    | 750    | 650    |
| うち国県支出金   |  |        |        |        |
| うち地方債     |  |        |        |        |
| うちその他     |  |        |        |        |

### 【指標】

|      |        |        |        |        |        |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 活動指標 | 活動指標名① | 実施回数   |        |        |        |
|      | 計算式等   | 単位     | 22年度実績 | 23年度実績 | 24年度計画 |
|      |        | 回      | 10     | 10     | 8      |
|      | 活動指標名② | 延べ受講者数 |        |        |        |
| 成果指標 | 計算式等   | 単位     | 22年度   | 23年度   | 24年度   |
|      |        | 人      | 1,000  | 1,000  | 500    |
|      |        |        | 801    | 563    |        |
|      |        |        | 80%    | 56%    |        |
|      | 成果指標名② |        |        |        |        |
|      | 計算式等   | 単位     | 22年度   | 23年度   | 24年度   |
|      |        |        |        |        |        |
|      |        |        |        |        |        |
|      |        |        |        |        |        |

# 十和田市事務事業評価シート

|      |    |
|------|----|
| 整理No | 68 |
| 計画No | 27 |

## 【担当課による検証】

| ポイント       |   | 検証   | 評価    | 点数      | 合計             | 検証の理由  |
|------------|---|--|-------|---------|----------------|--|
| <b>妥当性</b> | ① <b>市民ニーズ等から見る妥当性</b><br>市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか    | A 薄れていない<br>B 幾分薄れている<br>C 薄れている             | A     | 2       | 4              | 存在意義の見直しの余地   0 / 4                                  |
|            | ② <b>実施主体である妥当性</b><br>行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)             | A 妥当である<br>B あまり妥当ではない<br>C 妥当ではない           | A     | 2       |                | 多様化している生涯学習のニーズに応えるため、北里大学と連携して行う事業の妥当性は十分にあると考えられる。 |
| <b>有効性</b> | ③ <b>活動指標から見る有効性</b><br>活動指標の実績は、順調に推移しているか                   | A 順調である<br>B あまり順調ではない<br>C 順調ではない           | A     | 2       | 3              | 成果向上の余地   3 / 6                                      |
|            | ④ <b>成果指標から見る有効性</b><br>成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか               | A 順調である<br>B あまり順調ではない<br>C 順調ではない           | C     | 0       |                | 新規受講生を増やすため、開催日時、場所等について再検討する必要がある。                  |
|            | ⑤ <b>事務事業の見直しの余地</b><br>成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか         | A 見直しの余地はない<br>B 検討の余地あり<br>C 見直すべき          | B     | 1       |                |  |
| <b>効率性</b> | ⑥ <b>事業費の削減の余地</b><br>事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か  | A コストに無駄がない<br>B 検討の余地あり<br>C 可能である<br>★ 実施済 | ★     | 2       | 6              | コスト削減の余地   0 / 6                                     |
|            | ⑦ <b>他の事務事業との統合・連携</b><br>類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か | A コストに無駄がない<br>B 検討の余地あり<br>C 可能である<br>★ 実施済 | ★     | 2       |                | 十和田市民大学講座と連携し、10講座のうち2講座を合同で実施し、負担金の削減を図っている。        |
|            | ⑧ <b>民間委託等</b><br>民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か         | A コストに無駄がない<br>B 検討の余地あり<br>C 可能である<br>★ 実施済 | A     | 2       |                |  |
| <b>公平性</b> | ⑨ <b>受益の偏り</b><br>現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか               | A 偏っていない<br>B 多少偏っている<br>C 偏っている             | A     | 2       | 4              | 受益者負担適正化の余地   0 / 4                                  |
|            | ⑩ <b>受益者負担の見直しの余地</b><br>現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか              | A 見直しの余地はない<br>B 検討の余地あり<br>C 見直すべき          | A     | 2       |                | 幅広い学習機会を提供するという観点から、受益の偏りはないと考える。                    |
|            |   |  | 現在の適性 | 17 / 20 | 改善の余地   3 / 20 |  |

## 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **17** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **3** 点です。

## 【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性

有効性を改善して継続

### 方向性の理由

第2次生涯学習推進計画の中で取り組んでいる「リカレント教育の充実」の事業の一環であることから予算の範囲内で改善をし継続したい。

### 今後の具体的な取組み方策と狙う効果

参加者数の減少、固定化がみられることから、受講料の無料化の検討や開催回数・時間・曜日等を見直したい。また市民に分かりやすいテーマや学習方法(講義、実習など)などについて実行委員会の中で提言していきたい。そのことにより多くの市民に学習する機会の提供に努めたい。